

2022年12月19日（月）19時より。真庭市役所本庁3階にて。

趣意書を作成する意図を伝えた後、第1回から3回までを振り返り、率直な感想をいただきながら、「これからどうしていくか」を話し合った。

- ・「共生社会」という抽象度の高い言葉ではあるものの、ひとりひとり思い描く「テーマ」があるように思う。その具体的なテーマについて、深掘りしていくような「対話の会」にしていくのはどうか。
- ・具体的なテーマの深掘り（違うことを認めあう）をしていくなかで、「共通のワード」を見出して、真庭なりの共生社会をあらわす言葉を見つけられたら、と思う。
- ・会議っぽくない会議を続けている。正解のないなかで、深みにはまり、どんどん難しくなっているように感じる。どのように進めていけばいいのか……。
- ・行政が決められるものではない。まどろっこしさは感じると思う。
- ・この会は、対話を重ねながら、じっくりと時間をかけて、自分の意識をゆっくり変えていくものではないか。
- ・来年（令和5年）の広報紙において「共生社会」を取りあげる予定である。

「これからどうしていくか」について、大きく2つの意見にまとまった。

○共生社会市民会議の広げ方、趣意書

- ・真庭なりの「共生社会」をあらわす言葉を模索しながら、それをういて会の参加者を広げていく。

○共生社会市民会議の具体的な内容や運営

- ・老老介護や子どもの貧困など、具体的なテーマについて「対話」する会。

○真庭なりの「共生社会」をあらわす言葉を模索しながら、それをういて会の参加者を広げていく。→いわゆる「趣意書」の作成に繋がっていくのではないか。

目指すもの、あるいは言葉があったほうが、人に伝わりやすい。

なにをどう伝えるのか。この会に漂う「自己開示のできる安心感」も伝えられたら良いのではないか。

それぞれの置かれている状況、悩みなどいろいろあるが、それを話せる場、認めてもらえる場がこのような気がする。自分らしく生きていける一助をこの場が担えるのではないか。

それを通じて、自分の意識が少しずつ変わっていくかもしれない。

また、じつはもう市内の各地にこういう場があるのではないか、という話にもなった。各企業や農協、社協、ちょっとした地域の集まり、あるいは雑談などで……。

その場とこの「共生社会市民会議」を繋げるためにも、なにか言葉が必要なのかもしれない。

○具体的なテーマについて「対話」する会を広げていく。

毎回、いじめや老老介護、子どもの貧困、ヤングケアラー、DV など、さまざまな具体的テーマを持ち寄って、話す場を設定していく。こちらでコントロールすることなく、その場に集まった方々が安心して話せる場をつくっていく。

ゆえに声かけも「共生社会」という言葉を使わず、「いじめについて話しませんか？」などのアプローチができるのではないか。「共生社会」はおそらくそのあとからついてくるものかもしれない。

また、いじめや障がいなど、どうしてもそういうテーマに偏りがちだが、もっと「農業」や「移住」など、幅広い分野でも共生社会へのアプローチができるのではないか。

そういう場を求めている人たちが確実にいる、と思う。寂しい想いをさせない、自分のことを話せる場……。

対話の場をつくるのが「共生社会」のような気がする。

意見交換を経て、両方について「まずはやってみよう」ということになった。

○「趣意書」の作成

そのために、「共生社会とは」「共生社会を自分なりに言いかえると」という言葉を集めてきてもらう、という宿題をお願いした。

もちろん、「趣意書」の言葉は時代の流れとともに変わっていく。ただ、現時点での伝えるための言葉をつくり、今後 MIT や SNS など呼びかけていけたら、と思う。

○具体的なテーマについて「対話」する会

そのために、どんな具体的なテーマがあるか、を持ち寄ってもらおう、と宿題をお願いした。それは今後、一度実施した「哲学カフェ」のような形であったり、あるいはこれまでの活動にプラスアルファの形であったり、さまざまな場で「議題」として用いることが可能になる。

「具体的なテーマ」と「場所」を設定して、広く呼びかけることもできる。

趣意書作成においても、具体的なテーマによる対話の会においても、今後の展望が見出せた会議だった。